さわらび

第78号

令和４年９月20日発行

社会福祉法人　泰仁会
特別養護老人ホーム「やさと」
石岡市小倉４４２－１
ＴＥＬ（0299）43－0811㈹
特別養護老人ホーム「桜の郷 元気」
東茨城郡茨城町桜の郷231−7
ＴＥＬ（029）292－3900㈹

４年目に向かって

泰仁会ホームページ

泰仁会　検索

泰仁会ホームページ　やさとブログ　こぎつねの郷ブログ

題字「さわらび」について

題字の「さわらび」は泰仁会創始者である、江畑隆夫先生（理事長）のご夫人である江畑昭子様が、直筆にて創刊号に寄せてくださったものを継承しています。

「早蕨」（芽を出したばかりのワラビ）という意味があり、創立当初より泰仁会の永続発展を願っていたことがわかります。広報誌「さわらび」も第７８号までに成長しました。

令和３年度決算報告

賃借対照表

令和４年３月31日現在

資産の部		負債の部	
流動資産	319,178,554	流動負債	197,631,152
固定資産	2,549,219,559	固定負債	825,802,246
		負債の部合計	1,023,433,398
		純資産の部	
		基本金	162,034,792
		国庫補助金等特別積立金	479,490,426
		その他の積立金	30,514,000
		次期繰越活動収支差額	1,172,925,497
		（うち登記活動増減差額）	−29,574,730
		純資産の部合計	1,844,964,715
資産の部合計	2,868,398,113	負債及び純資産の部合計	2,868,398,113

事業活動計算書

（自）令和3年4月1日（至）令和4年3月31日

勘定科目	決算額
サービス活動収益	1,356,013,977
サービス活動費用	1,380,773,242
サービス活動増減差額	−24,759,265
サービス活動外収益	7,885,717
サービス活動外費用	12,466,078
サービス活動外増減差額	−4,580,361
経常増減差額	−29,339,626
特別収益	683,000
特別費用	918,104
特別増減差額	−235,104
当期活動増減差額	−29,574,730
前期繰越活動増減差額	1,198,659,227
当期末繰越活動増減差額	1,169,084,497
その他積立金取崩額	3,841,000
その他積立金積立額	0
次期繰越活動増減差額	1,172,925,497

資金収支計算書

（自）令和3年4月1日（至）令和4年3月31日

勘定科目	決算額
事業活動収入	1,363,899,694
事業活動支出	1,285,381,950
事業活動資金収支差額	78,517,744
施設整備等収入	683,000
施設整備等支出	103,350,346
施設整備等資金収支差額	−102,667,346
その他の活動収入	63,667,231
その他の活動支出	11,709,087
その他の活動資金収支差額	51,958,144
予備費	0
当期資金収支差額合計	27,808,542

前期末支払資金残高	224,864,932
当期末支払資金残高	252,673,474

令和３年度事業報告

◇利用状況　やさと

特別養護老人ホームやさと		27,785人
ショートステイやさと		4,963人
デイサービスやさと		7,831人
デイサービスやさと（総合事業）		1,305人
ケアプランセンターやさと		1,291件
ケアハウスやさと		5,458人
在宅介護支援センターやさと	相談件数	232件
	実態把握	156人
	生活機能評価	100人
	介護予防教室	326人
グループホームさわらび		6,325人
国府あおい	宿泊	2,555人
	通所	3,216人
	訪問	3,956人
事業所内託児所こぎつねの郷		1,843人

桜の郷 元気

特別養護老人ホーム桜の郷元気		24,664人
ショートステイ桜の郷元気		3,864人
デイサービス桜の郷元気		9,015人
デイサービス桜の郷元気（総合事業）		670人
ケアプランセンター桜の郷元気		1,236件
シルバーハウジング	安否確認	10,536件
	関連機関連絡	80人
	相談件数	23人
	緊急時対応	1人
桜の郷元気ひたちの長岡	ショートステイ	5,915人
	デイサービス	5,692人
	総合事業	687人

◇リスクマネジメントの取り組み状況

	やさと	桜の郷 元気
事故報告件数	315件	159件
ヒヤリハット報告件数	3,665件	1,409件
ご意見・苦情件数	3件	7件
やむを得ない身体拘束件数	3件	0件

◇有資格者数（令和4年3月31日現在）

資格名	やさと	桜の郷 元気	資格名	やさと	桜の郷 元気
介護福祉士	53人	54人	理学療法士	1人	2人
社会福祉士	4人	1人	作業療法士	1人	1人
介護支援専門員	17人	10人	管理栄養士	1人	1人
正看護師	6人	8人	保育士	7人	0人
准看護師	7人	6人			

終息(戦)

泰仁会常務理事
桜の郷元気施設長
永山　直人

立秋が過ぎ、やや朝晩がしのぎやすくなったような気がしております。私事になりますが、令和4年度泰仁会第1回理事会において業務執行理事に選定されました。今後は、常務理事として法人・事業所の経営・運営に参画し、これまでどおりに、桜の郷元気施設長も兼任していく事になります。菊地理事長を中心に、高城施設長・大塚事務長と共に、執行機関である理事会運営の実働的な役割を果たし、法人理念である「あってよかった・いてよかった」と、泰仁会の永続発展のために、微力ではありますが、努力を重ねていく所存です。さて、先日、妙な夢を見ました。桜の郷元気の管理職の一人が、「施設長、カラータイマーが点滅したから、もう帰りますよ…」（ウルトラマンのカラータイマーです）、と私から離れていきます。暑い晩で汗びっしょりで起き上がりました。日頃から、管理職のみんなに依存している私です。心の中で「自律」しなければ、という気持ちが働いていたのでしょうか。それとも管理職や職員の皆が、コロナ対策に明け暮れて、いまだ終息が見通せない中で、「この星（介護業界）にはもういられない。自分の星に帰るよ」と、有りもしないことを皆の「心の声」として、私が無意識にとらえていたのかもしれませんね。一生懸命に、日々感染症に向き合い、高齢者を守るみなさんに失礼でした。心の中でお詫びをして、毎日の苦労に深謝をしました。次頁には、施設の柱となる管理職（谷総合支援課長・谷看護主任）夫婦の活躍を。また1月に就任した、高橋まゆみ生活相談員（係長）を紹介させていただきました。3名とともに、ただひたすらに、ご利用者の幸せを願い日々、皆の先頭に立っています。職員からの信頼も厚く、心優しい人です。話題を変えますが現在、地球規模で新型コロナウイルスだけではなく、日本を取り巻く環境が大きな変化をしており、ロシアによるウクライナ侵攻が、常態化しています。約200年以上も、軍事同盟への加盟を避けてきた、北欧の福祉国家であるスウェーデンや、ロシアとの対立を避けるため非加盟国であった、フィンランドもNATO（北大西洋条約機構）に加盟申請をしました。あの福祉先進国がと、私にとっては信じられないことでした。また、安倍元総理の銃撃事件もありました。児童福祉関係でお世話になったと、元茨城県高萩市長の草間吉夫氏が、「福祉新聞」に寄稿しておられ「世界情勢が不安定な昨今、元首相の持つ存在感や見識、行動力は欠かせず、国益の損失は計り知れない」と結んでいますが、在任期間も長く、歴代の総理では一番親しみのあった方が、銃撃で命を落とす惨状に大きなショックを受けました。これも日本で現実に起こっている事実です。日本という国家運営から見れば、法人運営は小さな・小さな単位になるかもしれませんが、「人の命と暮らしを守る」ということに何ら変わりはありません。まずは我々、一人ひとりが「自分を自分自身でしっかり守る」ということから、もう一度見つめ直していこうと、職員に語っています。自分を大切に・自分の命を大切に、今であったら自分がコロナウイルスに感染しないように。その広がりが最終的に、我々が支援している高齢者を守って、仲間である同僚や職場を守っていくものだと伝えています。現在、感染者数が世界一になっている日本。コロナウイルスと共生・共存していく事を選択したのは、我々日本人です。高齢者の方々の尊い命に、そして命を守る最後の砦である、医療機関・医療従事者に、これ以上の負担をかけないためにも、「自分をしっかりと守り続ける」ということを先頭に立って、実践していきたいと思っています。最後に、先日77回目の終戦記念日を迎えました。高齢者の方々が、我々に教えてくれている「戦争は絶対に起こしてはならない」という事を守るために、自分は何をしたらよいのかと絶えず考え続け、世界全体の「終戦」を願っていきたいです。

デイサービスやさと

大洗へ行ってきました！

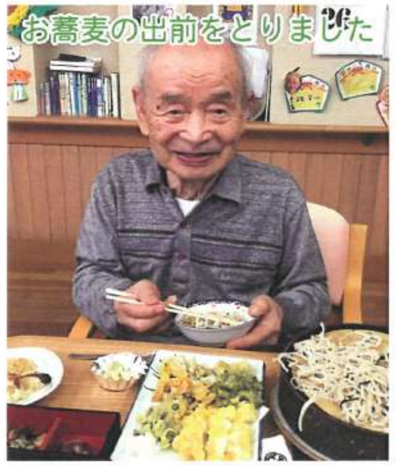
精神統一

うまく割れるかな？

ケアハウスやさと

バーベキュー大会の準備中

グループホームさわらび



お蕎麦の出前をとりました

中庭でヨーヨー釣り

国府あおい

選挙へ参加しました

じゃがいも収穫！

★守りぬく

生活支援課長　谷　伸一郎

全国的なコロナウイルス感染症の増加に伴い、毎日のようにテレビや新聞では専門家や医師によるコロナ話を耳にします。もう「コロナ」という言葉はいい加減聞き飽きた。いつになったら感染を気にすることなく気軽に外が歩けるようになるのかと思う方も多いのではないでしょうか。コロナウイルスと向き合う中で、私は施設内で様々な光景を目にしてきました。一時的な面会制限の緩和により数か月振りに直接親の顔を見て安心と嬉しさから涙されるご家族の姿。働く仲間が感染したことで自分も感染するかもしれないと不安と闘いながら感染症蔓延を防止する職員の姿。そして施設内で感染者が発生した際、私自身が濃厚接触者に特定されてしまった時、改めて自分の家族（妻）に感染させてしまうのではないかと恐怖を身近に感じる自分の姿でした。私事で大変恐縮ですが、私は夫婦で桜の郷元気に勤務しており、私は施設の介護支援専門員、妻は看護師という職種であり、同じ部署で主に感染症対策を中心となって行う立場でもあるため、お互いどちらかが感染してしまえば多くの職員、ご利用者へ迷惑がかかると常に危機感をもって職場はもちろんのこと私生活でも注意しています。

濃厚接触者になった際は部屋と寝食を別にし、常にマスクを着用し、換気を十分にする。夫婦の会話すらほとんどない制限の中での生活でした。

一日も早く収束を願い、収束の条件であるPCR検査結果が施設内【陰性】と通知があった時恥ずかしながら涙目で施設長へ報告したことを覚えています。

永山施設長からいただいた言葉から「まずは自分自身を感染症から守ること。それがみんなを守ることにつながる」夫婦や家族に置き換えても通じる言葉であると思います。誰一人として大切な人、命を失わないように守りたいと強く思います。

★新たな一歩

生活相談員　高橋　まゆみ

平成十九年に桜の郷元気にパート職として入職しました。泰仁会の理念や施設方針、またユニットケアに触れることで、それまでの介護への印象が変わり、入居者一人一人の尊厳やニーズを大切に支援していく事が大事だと感じました。しばらくパート職で入居者様の支援を行って来ましたが、日中だけではなく入居者様の二十四時間の生活を知りたいとの思いから正職員として働き始めました。その後、ユニットリーダーとして入居者様の支援やユニット職員をまとめる業務を行ってきました。コロナ禍以前はご家族様と一緒に外出行事やユニット単位での家族会を行えており、入居者様やご家族様にいつも笑顔で過ごしていただきたいと考え支援を行ってきました。

今年一月から生活相談員として従事させていただいていますが、ユニットでの直接的な支援とは違い、外部のケアマネジャーや医療機関の方など今まで接して来なかった職種の方との連携やご家族様の相談役など業務の内容が幅広く、戸惑うことが多くあります。また、コロナ禍により介護を始めた頃とは入居者様だけでなくご家族様や職員の生活も変わってしまいました。職員の仕事への向き合い方も変わってしまったように思います。ご家族様とお会いすることが難しい状況の中、ユニット職員との架け橋も相談員の大事な仕事だと感じています。まだまだ覚えることがたくさんあり、上司や看護師、事務職など他部署の方々やユニットリーダーの皆に助けられる事ばかりですが、入居者様やご家族様に笑顔で過ごしていただきたいという気持ちを忘れずにこれからも業務に励んできたいと思います。

特養やさと 夏祭り

いっぱいとれるかな？

ヨーヨー釣り

輪投げ

夏の風物詩

仏様をお迎え

初めてのｅスポーツ体験

こぎつねの郷　子どもたちの様子

ヨーヨーすくい

ミニトマト収穫

流しそうめん大会

お部屋で読書

★挑　戦

EPA介護福祉士　サム

私はフィリピンからEPA（経済連携協定）介護福祉士候補者として国家試験を受けるために平成２８年に日本へ来ました。そして特別養護老人ホーム桜の郷元気に縁があって就労することとなり、最初は文化の違いや日本語が良く分からないため日本で頑張っていけるか不安がありました。それでも同期であり、そして年上で人生の先輩でもあるもう一人の女性EPA候補者の支えや家族へ恩返しをしたいという強い思い。それから自分自身も他人に頼りきりではなく、自分で一生懸命日本語の勉強をして読める漢字、分かる言葉が増え自信もつき、見事介護福祉士国家試験を合格することができました。それからもずっと今の職場で働き、気づけば日本に来て5年以上EPA介護福祉士として仕事を頑張り、お金を貯めて母国の家族へ仕送りをして、家をリフォームさせてあげることもできました。

しかし、この5年間の中には乗り越えないといけない困難もたくさんありました。コロナウイルスで母国へ帰国できなかったり、病気に悩まされ入院をすることもあり、途中で退職を考えたこともありました。それでも家族や桜の郷元気の職員が支えてくれたおかげで困難を乗り越えることができ、考え方も大人になり成長できたと思います。本当に感謝しています。

今後は桜の郷元気から旅立ち、チャレンジャーな私はたくさんやりたいことがあります。日本語検定1級を合格すること。そして母国では看護師免許を取得していますので、日本でも看護師の資格取得を目指します。今後は自分の成長と幸せのためにチャレンジできる道を歩んでいきたいと思います。

★癒しの時間

デイサービス　加藤　泰久

今日は待ちに待った『園芸』です。それぞれ四つのグループに分かれて、フロア内でのレクリエーションとなりました。毎年行っているデイサービスご利用者アンケートで参加したいイベントの人気第一位が今回写真を掲載させていただいた【園芸】です。その他二位【運動】三位【映画鑑賞】四位【お菓子作り】五位【茶道】でした。八月に各ご利用者に好きな花を選んで頂きながら事前の準備段階から参加していただきました。今回はご自宅に咲いている花や苗などを持ってこられるご利用者もいたり園芸が得意なご利用者のアドバイスのもと、どのように植えるか楽しみながら競う様子が見受けられ、またグループ内で仲良く、協力し合う様子も見られました。次回は野菜苗も植え見るだけではなく味覚を味わって頂けるような活動も予定しております。今夏真っ盛りでも涼しく植物と触れ合える行事でしたが、お花にも一杯お水をあげつつ、ご利用者も沢山水分補給していただきたいです。次は何の花を植えようかと楽しみにされているご利用者もいらっしゃり、私たちもその姿を見て自然と笑顔になりました。

今できることを

特別養護老人ホームやさと
施設長
髙城　　裕

いばらきフードロス削減プロジェクトをご存知でしょうか。

昨年、茨城県が新たに立ち上げたプロジェクトです。フードロスは、日本だけの問題ではなく、世界的な環境悪化や食糧危機など重要な課題となっており、SDGsとの関連性はとても高いです。

茨城県は、食料供給において農畜産物や加工食品を多く産出しています。フードロス事業者は、賞味期限間近の食品、売れ残り、調理ロス、食べ残し、収穫ロスなどをフードロス活用事業者へ提供し、規格外品を利用した商品を提供したり、食品を必要としているこども食堂や困窮者に届け、畜産の飼料作りをしたりなど様々な事業者がフードロス対策に取り組んでいます。フードロスを抱える事業者と活用したい事業者がお互いの目的でマッチングするので効果が大きいです。

当施設においても日々の調理ロスや残食が一日平均十五キログラムになります。このフードロスを何かに貢献できないかと考え、連携事業者としてマッチング支援へ登録しました。フードロス削減プロジェクトに取り組んでいる事業者や生産者とのつながりに期待がもてます。

私達の施設では、このコロナ禍においても、社会貢献活動を充実させる取り組みをしています。一つ目は、石岡市社会福祉協議会と連携し、買い物支援で使用する車両を無償で貸し出しています。二つ目は、地域の方々が病院受診や外出する際、車椅子でも対応できる車両を無償で貸し出しています。毎月の利用者も増え、買い物支援では五回、受診対応車では十回以上のご利用者が見られ、少しずつ地域に浸透していることを実感しています。

地域貢献で大切にしていることは「人と人とをつなげること」や「何かと何かをつなげる」視点だと考えています。今後も、今ある資源を有効活用しながら、出来ることを挑戦していきたいです。

四回目ワクチン接種

全国各地で新型コロナウイルスによる感染者が増加しています。施設内でも感染症が発生し、七月には対面面会を一時再開しましたが、感染者増加に伴い中止をさせていただきました。

入居者・ご利用者・ご家族様には大変ご迷惑とご心配をおかけしております。

施設では、引き続き感染予防対策の徹底と四回目のワクチン接種を実施しております。

入居者様に関してはあらかた接種が完了しており、現在職員の四回目のワクチン接種を嘱託医と協力しながら、八月より順次実施しております。

感染症終息に向けて、職員一同取り組みを続けてまいります。

すくすく通信

特養やさと　小澤介護員
小澤澪桜（みお）ちゃん 3598ｇ

特養やさと　小河原介護員・ジェーン介護員夫婦
小河原英里咲（えりさ）ちゃん 2755ｇ